

“夏の足工” 伝統校のプライドを胸に

ASHIKAGA TECHNICAL High School Baseball Club News

APR 2016 Vol. 1

拝啓、時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、足利工業野球部も長年に渡り尽力されてこられた植木真仁監督の異動により、戸惑いながらも新監督のもと平成28年度をスタートすることができました。伝統ある足利工業野球部で監督を務めることを光栄に思うと同時に、その責任の重さを感じています。微力ながら、部員ともども足利工業のユニフォームに恥じない取り組みができるよう努力しますので、変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願いします。

そしてこの度、選手の頑張りを記録として残したい。また、活動の1つ1つをより意味のあるものにできたらと考え、“夏の足工” 伝統校のプライドを胸に を作成しました。足利工業は6度の甲子園出場を誇りますが、そのすべてが夏の大会となっています。夏に限れば、6度という数字は作新学院、文星芸大附属に続き、佐野日大と並ぶ3位であり、県立高校としては現在でも栃木県内 No. 1 の実績となっています。このことから“夏の足工”と呼ばれ、すべての甲子園出場が夏というのは、単に良い選手を集めて勝ったのではなく、先輩方が厳しい練習にも耐え、懸命な努力の結果として勝ち取ったものだったことを意味している気がします。これは賞賛に値することであり、こういった理由から毎月発行予定の記録集を“夏の足工” 伝統校のプライドを胸に というタイトルにしました。現部員には、そのチームの一員であること、ストックキングの6本線に誇りを持ち、それに相応しい取り組みをして欲しいと願っています。

ただ、“夏の足工”と言われるのと同時に、“古豪・足工”といった呼ばれ方をするのも事実です。この言い方からは、どうしても昔強かったチームというニュアンスが伝わります。本校と同じく伝統のある作新学院は、強豪校と言われても古豪と呼ばれることはありません。足工野球部の良き伝統を引き継ぎながらも、最終的には単なる古豪、伝統校ではなく“伝統ある強豪校”になれたらと考えています。そのためにも、まずは“良いチーム”、“応援されるチーム”を目指したいと思います。

最後に、今年度については10名の新入部員を迎えられたことを嬉しく思います。高校野球の本来あるべき姿、そして“人間性豊かな工業人の育成”という本校の教育目標を忘れず、平成28年度も努力していく所存です。5月には次なる目標となる市内大会も控えています。南部地区予選後の選手ミーティングでは、“元気”と“雰囲気良さ”といった部分を前面に出し、強豪校にも勝負を挑むことを確認しました。南部地区予選の悔しさを晴らせるよう頑張ります。選手の懸命なプレーに温かいご声援、ご協力をお願いします。

